

資源の解説

西側

⑤ 古市薬師寺と分祠

麻づくりが盛んなころ、川で水仕事を行う女性たちの手は荒れ、工場で使う灰のアクやソーダ(炭酸ナトリウムなどの化学薬品)で眼を焼く人も多かった。そこで疾患治癒を祈願するため、一畑薬師(島根県)から本尊を迎えて大正9年(1920年)に創建された。本尊薬師如来像は享保年間(1716~1735年)の作とされる。

また、国道183号古市交差点の東側に薬師寺の分祠が置かれ、地藏尊が安置されている。



⑥ 浄宗寺

天正年間(1573~1591年)備浄員が開基し、当時は天台宗であった。元禄4年(1691年)5月22日に時の住持寿礼(泉寺では寿福と記載)が改宗して真宗となる。もとは中筋切戸にあったが、明治35年(1902年)に、旧国道に面した現在の地に移ってきた。



⑦ 旧雲石街道

雲石街道は、現在の中区界町で西国街道から分かれ、可部・吉田・三次等を経て出雲に至る出雲路と、可部から石見(益田方面)に至る石見路の総称である。古市では県道矢口安古市線(横川と可部を結ぶ旧国道の一部)がこれにあたる。かつては街道筋に商店や娯楽施設が建ち並び、おおいに賑わったという。

当時の街並みはほとんど失われたが、今もなお、歴史を感じさせる木造の建物や蔵などが一部に残っている。



⑧ 八木用水

江戸時代中期に開削された延長約16kmの農業用水路。太田川右岸の佐東、安古市、祇園にまたがる地域の農業用水を確保するため、南下安村の木工卯之助が中心となって工事を行った。八木村の十歩一から取水し、途中の農地を潤しながら、末端は楠木村(現西区)に至っていた。

その後、取水口の変更や水路の改修を経て現在にいたり、今は太田川発電所からの分水を使用している。



⑨ 安川緑道

安川緑道は、安川の付け替えによって廃川となった旧安川の河川敷を利用した緑道である。中須から長束に至る廃川敷のうち、武田山橋(祇園一丁目付近)までの約3.1kmの区間が緑道として整備されている。途中には広場も設けられ、遊具やトイレなども設置されている。

かつてJR古市橋駅前の交差点には、安川に架かる延長約32m、幅員約8mのコンクリート橋があり、可部線の前身となる軽便鉄道もこの橋を渡っていた。安川の廃川によって、この古市橋も平成7年(1995年)に役目を終えた。



主な参考文献

安古市町誌／郷土の歴史探訪(安佐南区公民館ネットワーク事業)／ふるさとひろしま(ひろしま郷土史研究会)／広島市の文化財 古跡・古道調査報告(財)広島市歴史科学教育事業団)／その他、社寺の現地解説文など



あさみ
なみ
散策
マップ

安佐南区
まちめぐり憩いの空間ルート研究会

furuiichi

歴史を感じさせる蔵と石畳

まちめぐり憩いの空間づくり事業について

安佐南区では、区の魅力を高める「魅力づくり事業」の一つとして、「まちめぐり憩いの空間づくり事業」(平成13年度~平成20年度)を実施し、区民の皆さんと一緒に自然、歴史、まちなみ、施設、住民活動、祭りなど、地域の特徴ある資源を生かしたポイント(空間)や、これらを結ぶルートづくりを行い、平成20年度までに全18ルートが完成しました。

このマップは、平成16年度に開催された「まちめぐり憩いの空間ルート研究会」において、古市、東野・川内地区に在住の方を含む区民メンバーが調査・検討した結果をまとめたものです。



■国道183号を通るバスは、広島駅、広島バスセンターから多数発着しています。
※運行時刻、所要時間、経由地などは、運行会社にご確認ください。

あさみなみ散策マップ ~古市ルート~

発行：広島市安佐南区役所 地域起こし推進課 ☎082-831-4926
制作協力：まちめぐり憩いの空間ルート研究会
発行年月：平成17年(2005年)3月 初版
平成21年(2009年)3月 改訂
平成24年(2012年)6月 改訂
平成28年(2016年)3月 改訂

「古市ルートとその周辺について」

古市

古来より東西・南北の交通の要衝であったため、人と物が集まって「市」をなしていたことが地名の由来とされています。特に近世以降、集落の中心を通る雲石街道の整備が進み、さらに古川を利用した舟運の発達などによって、麻の産地、集散地として発展、明治から大正にかけて「麻の古市」と全国的に知られていた歴史があります。

明治22年(1889年)、現在の中筋・東野とともに三川村となり、昭和18年(1943年)の町制施行に伴って古市町と改められました。さらに昭和30年(1955年)には隣接する安村と合併し安古市町となりましたが、このころから広島市近郊の住宅地として市街化が進み、昭和48年(1973年)には広島市に編入、昭和55年(1980年)の政令指定都市移行を受けて、現在の安佐南区の一部となりました。



昭和25年(1950年)の古市とその周辺



平成13年(2001年)の古市とその周辺

古川と安川

古市と中筋の間を流れる古川は、かつて太田川の主流でした。慶長12年(1607年)の大洪水で氾濫した川の流れは、中筋や東野を越えて現在の太田川的位置に移ってしまい、水量の減った古川は太田川の支流になりました。区役所の東側とオノ木神社西側に周囲より高い場所を通る道路がありますが、これらは昔の堤防だったところで、今より川幅が広がったことがわかります。

一方、以前の安川は古市の北側で大きくカーブして、街の西側を流れていました。大雨などですぐに増水する川だったため、カーブの角の先にある古市の街はしばしば洪水に襲われていました。

戦後になってようやく堤防の整備や安川の流路変更といった総合的な治水対策が行われ、水害の心配もなくなりました。現在、古川の堤防には古川水鳥緑道が、また旧安川の廃川敷には安川緑道がそれぞれ整備され、市民の憩いの場となっています。



かつて古川土手だった道(オノ木神社西南)

正しい歩き方

せつかく歩くなら、正しく歩いて「健康ウォーキング」をしませんか?

胸を張り
背筋を伸ばし
肩の力を抜いて
リラックス

ウォーキングは・・・
肥満・高血圧等の生活習慣病を
予防・改善するだけでなく、
脳の活性化により、認知症や
老化の予防、筋力アップによる
転倒予防にも効果的です!

元気じゃけんひろしま21
~安佐南区では、「健康ウォーキング」を推進しています!~



この印刷物は再生紙
を使用しています

東側

まちめぐり

① 久保山神社

江戸時代の文献「芸藩通志」には、山王社と記されている。祭神は、大山津見神・大穴牟遲神。古来より地方武人の崇敬厚く、神田等も多くあったが福島正則が領主であった慶長年間、これら神田を没収したという。

天保5年(1834年)に古市地区の大火ですべてを焼失したが、後に再興されている。明治4年(1871年)、村社となり久保山神社と改称された。昭和9年(1934年)に鎮火100年を記念した「鎮火百年大祭記念碑」が立っている。

3本のイチョウの太木が特徴的で、同じ境内に建つ恵美須社の御神体は、大火で焼け残ったイチョウの部材を彫刻したものである。

また、境内には浅野家の家紋が施された手水盤が奉納されており、厚く崇拝されたことが推測される。



② 石畳

麻づくりが盛んだった明治から大正にかけて、古市の町には煮扱屋(にこぎや)と呼ばれる麻の繊維工場が50軒ほどあった。古川では繊維の「けば」をこそぎ落とす作業が行われており、旧街道に沿って河原へ通じる石畳や麻製品が保管された蔵が残っている。この石畳を降りたところは畑になってしまったが、古川の河原だった頃は、ここで麻の繊維を干したといわれている。



③ オノ木神社

神社の建立時期は不明であるが、文政3年(1820年)の古文書に記録が残っている。「芸藩通志」には「八幡宮」と記されているが、明治4年(1871年)に現社名に改称された。

この神社を厚く崇拝し祈願所として神田等を寄附したのが、「川の内警護衆」と呼ばれた水軍の将「福島大和守」である。なお、現在の本殿は昭和6年(1931年)に改築、拝殿は明治42年(1909年)に増改築された。祭神は菅原朝尊。



④ 古川水鳥緑道

古川は、市街地を流れる河川でありながら良好な環境が保たれており、カワセミ、マガモ、アオサギなど約20種もの水鳥が飛来する貴重な空間である。

古川水鳥緑道は、これらの自然を生かして、広島インターチェンジから太田川合流点までの堤防敷を、散策や自然観察、環境学習の場として活用できるよう整備しているもので、緑道に沿って、あすまややベンチ、動植物の解説板などが設けられている。



●マップと資源の解説の見方

地図面の右側を折り返すと、地図の左半分に掲載された資源の解説を読むことができます。逆に左側を折り返すと地図の右半分に掲載された資源の解説を読むことができます。

右側を折り返す



左側を折り返す



軽便鉄道の線路跡

古市小学校の敷地を挟んで南北に幅の広い真っ直ぐな道があります。地元では、この道を「軽便道」と呼ぶ人がいます。これがJR可部線の前身となった軽便鉄道の線路敷跡だからです。

明治44年(1911年)に横川～可部間で開通した軽便鉄道は、山陽鉄道(現JR山陽本線)などより軌道幅の小さい規格の鉄道で、馬力も小さく急な上り坂では乗客が列車を降りて後押ししたこともあったそうです。

線路は現在と異なり、古市橋駅の前で旧国道に沿って曲がり、古市の町の手前(古市薬師寺分祠前)で再び北に曲がって、



北側から見た軽便道跡(正面奥が古市小学校)

古市とバレーボール

戦前から戦後の長きにわたり古市小学校で教員、校長を務めた頼實力氏は、子どもたちの健全な心身づくりにバレーボールを推奨してこられました。古市小学校が「囀鳴小学校」と呼ばれていた昭和8年(1933年)には「安佐郡排球大会」が始められ、現在も古市小学校を会場に「広島市少年少女バレーボール祭」として続けられています。

また先生の教え子たちは、青年団を母体とした「囀鳴クラブ」を結成して卒業後もバレーボールに取り組み、昭和23～24年(1948～1949年)の2年にわたって国民体育大会と日本選手権大会で四連続優勝を達成してその名を全国に馳せました。こうした地域ぐるみの取り



伝統顕彰の庭



説明板をじっくり読むと、いろいろわかって面白いよ



古市橋駅舎

オノ木神社付近からの眺望(武田山)



古市の街並み 拡大図

細い路地が入り組む古市の街並み。どことなく懐かしさを感じる空間に、ちょっとだけ迷い込んでみませんか? ※注) 道幅は実際より大きく表現しています。



- 記号の説明●
- まちめぐりルート
 - 0.3 区間の距離 単位: km
 - 《注意場所など》
 - 横断注意
 - 信号交差点
 - 歩行注意
 - 階段
 - 歩道橋
 - 《まちめぐり資源》
 - 公園
 - 河川・水路
 - 神社、寺院、碑、その他由来のあるもの
 - 特徴ある風景・街並み
 - 眺望場所
 - 樹木
 - 資源の解説板
 - 《目標物・その他》
 - バス停留所
 - コンビニエンスストア
 - スーパー・ショッピングセンター
 - ガソリンスタンド
 - 郵便局
 - 交番
 - トイレ
- ※注) ①資源名で示したものは裏面に解説があります。